

於大の方

於大の方（おだいのかた、享禄元年（1528年） - 慶長7年8月28日（1602年10月13日））は、戦国時代から安土桃山時代にかけての女性。松平広忠の正室で、徳川家康の母。晩年は伝通院と称した。実名は「大」、または「太」「たい」。なお、嘉永3年（1850年）10月29日に従一位の贈位があり、その位記では、諱を「太子」としている。

生涯

享禄元年（1528年）、尾張国知多郡の豪族・水野忠政とその妻・華陽院（於富）の間に、忠政の居城緒川城（愛知県知多郡東浦町緒川）で生まれた（青山政信の娘で忠政の養女であったという説あり）。

父・忠政は緒川からほど近い三河国にも所領を持っており、当時三河で勢力を振るっていた松平清康の求めに応じて於富の方を離縁して清康に嫁がせ

（於富の方所生とされる子達の出生年からこれを否定する説もある）、松平氏とさらに友好関係を深めるため、天文10年（1541年）に於大を清康の跡を継いだ松平広忠に嫁がせた。天文11年12月26日（西暦1543年1月31日）、於大は広忠の長男・竹千代（後の家康）を岡崎城で出産した。

天文12年2月3日、三河国妙心寺に薬師如来の銅像を奉納して竹千代の長生きを祈念した。

忠政の死後、家督を継いだ於大の兄・信元が、天文13年（1544年）に松平氏の主君・今川氏と絶縁して織田氏に従ったため、於大は今川氏との関係を慮った広忠により離縁された。実家・水野氏の三河国刈谷城（現刈谷市）に返され、椎の木屋敷で暮らしたとされている。於大は天文16年（1547年）には信元の意向で知多郡阿古居城（坂部城、現阿久比町）の城主・久松俊勝に再嫁した。これは、俊勝が元々水野氏の女性を妻に迎えていたが、妻の死後は水野氏と松平氏の間で帰趨が定まらなかったため、松平氏との対抗上その関係強化が理由と考えられる。俊勝との間には3男3女を儲ける。また、この間にも家康と音信を絶えず取り続けた。

永禄3年（1560年）の桶狭間の戦い後、今川氏から自立し織田氏と同盟した家康は、俊勝と於大の3人の息子に松平姓を与えて家臣とし、於大を母として迎えた。天正3年12月（1576年1月）、於大の兄の水野信元が謀反を疑った織田信長の命令により、家康に殺され、水野家は一時滅亡した。この時、真相を知らずに家康の下へ信元を案内した久松俊勝は隠退してしまう。また家康の下へ行かずに、尾張国の久松家の所領を継いで織田家に仕えていた久松俊勝の子・久松信俊（俊勝の先妻の子で、於大の子ではない）も信長に謀反を疑われて大坂四天王寺で自害し、所領は没収された。於大は俊勝の死後、俊勝菩提寺の安楽寺で剃髪して伝通院と号した。天正12年（1584年）の小牧・長久手の戦い後、子の松平定勝が羽柴秀吉の養子になるという話が浮上したが、強く反対し、家康に断念させた。慶長7年（1602年）には、高台院や後陽成天皇に拝謁し、豊国神社に詣でて徳川氏が豊臣氏に敵意がないことを示した。

同年8月28日、家康の滞在する現・京都府京都市伏見区の山城伏見城で死去。遺骨は江戸小石川の傳通院に埋葬された。法名は伝通院殿光岳菴智光。

なお、於大の出生地・東浦町は彼女を記念して緒川の地に「於大公園」を整備し、毎年「於大まつり」を催している。

Wikipediaによる

